

兵庫県地球温暖化防止活動推進員

地球温暖化防止活動推進員は地球温暖化対策の推進に関する法律(平成10年法律第117号)(以下「温対法」)第37条に基づき、地球温暖化防止の取組を進める者として、兵庫県知事が委嘱しています。推進員制度は、平成12年度から開始、委嘱期間の任期3年とし、第9期の推進員(228名)が活発に活動しています。



地域で地球を守る。

第9期の委嘱期間が令和3年4月～令和6年3月で任期終了し、第10期が令和6年度から3年間の任期で募集されました。私たちの環境21の会からは1名増えて、9人が応募しました。最近の傾向として年々応募人数が減少していると聞いています。その理由は定かではありませんが、少子高齢化と働きの担い手が高齢化し、人手不足が一因であるようです。

推進員の活動は国や自治体の施策に基づいて、市民に温暖化防止を啓発することが目的であるが、地球温暖化という、とてつもない大きな脅威であるにも関わらず、実感が伴わないのが現状で、「知っている」から「実行している」になかなかつながらない。それに国民全員の運動ではあるが、国や県、市町の自治体、それに企業や民間団体がそれぞればらばらに活動しているのも気になることである。推進員の応募規定に「温室効果ガス排出削減及び気候変動への適応策等のために県、市町が行う施策に必要な協力ができること」とあるが、これは推進員にとっては本意である。自治体が推進員と連携する姿勢があまり感じられない。推進員は施策遂行に向かって積極的に参加していき、官民一体となって脱炭素社会を築いていく推進員でありたいと願っている。

クイズ解答 Q1:③ Q2:① Q3:① Q4:① Q5:② Q6:③ Q7:①

今後の活動スケジュール

令和6年4月～活動予定

4月3日	水	明舞まちづくり交流拠点	例会・理事会
4月25日	木	五色町	ケナフ畑整備、種まき、炭出し
5月1日	水	明舞まちづくり交流拠点	例会・理事会・総会
6月初旬		五色町	ケナフ植栽

【会員随時募集中】

地球温暖化防止活動などに関心がある方、下記事務局に連絡をお願いします。

〒673-0862 明石市松が丘2丁目2-6
(明舞プラザビル2階 明舞まちづくり交流拠点内)

NPO法人 環境21の会事務局

電話&FAX: 078-914-5546

Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp

ホームページ: <http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21nokai>



編集後記

今冬は寒暖差が大きく体調維持に苦労された方も多かったのではないのでしょうか。年々異常気象が増加して、暮らしにくい世の中になっているような気がします。昨年度、30回近くの環境教室を開催しましたが、今年度も続けて、本誌「環境ニュースレター」を発信してまいりますのでよろしくご期待ください。

環境ニュースレター 春号

Vol.62

NOW



発行者 NPO 法人 環境21の会 理事長 松本 弘
明石市松が丘2丁目2-6
明舞第2センタービル2階 明舞まちづくり交流拠点内
Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp
<http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21noka>
発行: 年2回

特定非営利活動法人 環境21の会

「ケナフとともに」

あしやエコクラブ代表 岩野 順子

お世話になっております。

あしやエコクラブ代表の岩野順子です。あしやエコクラブは、1999年の芦屋市公民館講座「ケナフで温暖化防止」で甲山ケナフの会の吉岡昌子様ご指導の下、1年間ケナフを育て、収穫、紙漉きを行った有志が集まって、立ち上げたクラブです。「ケナフ」だけでなく、様々な環境問題に対処しようとクラブ名は「あしやエコクラブ」になりました。

最初のころは、ケナフのことをいろいろ学習し、市民向け講座でケナフを育て、紙漉きを行っていました。数年後、紙漉きはとても大変なので、栄養のあるケナフの葉を食べることにしました。ケナフクッキー、ケナフパン、なかでも自分たちで育てたケナフの葉を使った「ケナフドライカレー」は好評です。

「広報あしや」という市民向けの情報紙で開催案内をしていましたが、「広報あしや」への投稿の期限が早くなり、掲載が難しくなったので、掲示板で募集案内をしています。参加人数は多くはないです。

現在は、古封筒や包装紙を利用した「エコ折り紙」でキッズスクエア(小学校の放課後クラブ)に参加したり、ケナフのほかにダンボールコンポスト作りやマーマレード作りの市民向け講座を開催したり、打ち水をしたりしています。また、私は「あしやエコクラブ」のほかに、日本環境協会のこどもエコクラブにも参加し、「グリーンキッズ」というクラブ名で登録し、地域の子供たちと活動しています。活動内容は、環境学習や自然観察などです。

もうひとつ、「葉っぱリサイクルクラブ」というグループで、地域清掃及び堆肥作りを行っています。(その活動に協力してくれている地域の保育園が令和5年度県のSDGSのスクールアワードで最優秀賞を受賞しました。)

芦屋市では、令和5年10月からゴミの回収が指定ごみ袋になったので、「葉っぱリサイクルクラブ」に落葉の処分の相談が多く寄せられるようになりました。その都度現地に赴いて堆肥作りを指導しています。

「葉っぱリサイクルクラブ」で作った堆肥を施したケナフはとても大きく育ちました。初期のころ、ケナフの花を利用したジュースやゼリーは子供たちに人気だったので、ケナフを大きくたくさん育て、カレー以外のレシピを増やしたいと考えています。



令和5年10月～令和6年3月活動実績

1. 西宮市宮水ジュニア (後期11月～3月)鳴尾東公民館で実施。

- 11月11日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。
- 12月16日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
- 1月13日 「ケナフの光合成とCO2削減を学習して、ケナフ材によるストラップとケナフ鞆皮でコースター工作。
- 1月27日 「太陽光と紫外線を学び、紫外線防御品遮蔽実験、紙コップで分光器を作り虹の観測」。
- 2月 3日 「森のはたらきと炭の効用を学習し、竹炭を使って炭電池を作り7色発光ダイオード点灯実験した。
- 2月24日 「自然エネルギー・風力発電」を学習しペットボトルで風車を作り発電実験、修了証記念品授与した。



2. 播磨町中央公民館 いきいき体験隊 (ダンロップ環境教室)

- 5月から全8回開講 5月～9月の4回分は前号で報告済、受講生20名で実施。
- 10月22日 「地球温暖化と海の環境」を学習し、魚型醤油入で浮沈子を工作し、ペットボトル内水圧で観察実験。
- 12月 3日 「地球温暖化とクールチョイス」を学習し、木エクリスマスツリーを作った。
- 2月 4日 「森のはたらきと炭の効用」を学習し、七輪炭火でケナフ炭を作り、餅を焼いてぜんざいで食した。
- 3月 3日 「自然エネルギー・風力発電」を学習しペットボトルで風車を作り発電実験し、終了記念品授与した。

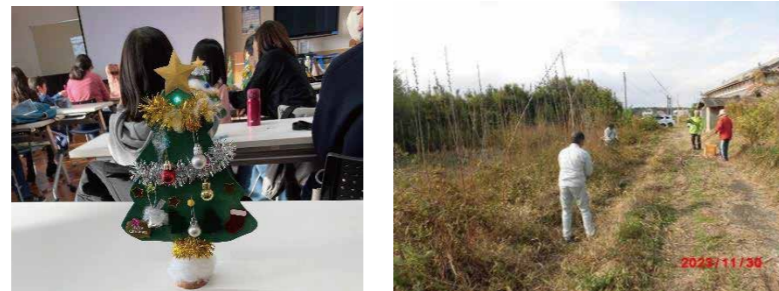


3. ひょうご環境創造協会 出前環境教室

- 12月9日 播磨町中央公民館
親子で「地球温暖化」を学習し
クリスマスツリーを作った。

4. まちの寺子屋(明石本校・淡路分校)ほか

- 11月30日 「ケナフ収穫祭」(淡路)
- 11月3～10日 明石本校 「明舞祭合同



展示会」環境ニュース Now 掲示、工作教室の作品 ソーラーカー等展示

- 3月26日 「ケナフ炭焼とケナフ畑の草刈り、整備」

5. その他 環境教室ほか

- 11月17日 三木市民活動センター みきボランティアフェスタ
「地球温暖化とケナフ効用パネル展示、ケナフストラップ&UV チェッカー工作

肩のこらない環境クイズ

地球環境のクイズです。正しい番号を選んで下さい。



- Q1: 過去約 100 年で地球の平均気温は何℃上がったでしょうか?
A1: ①約5度 ②約3度 ③約1度
- Q2: 地球温暖化の原因となっているものは何か?
A2: ①空気中のガス ②ほこり ③オゾン層
- Q3: 二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスがまったく存在しない場合、地球の平均気温は?
A3: ①マイナス-19度 ② 0度 ③10度
- Q4: 人が 1km 移動する時の CO2 排出量が、最も少ない乗り物はなにか?
A4: ①鉄道 ②飛行機 ③バス ④自家用車
- Q5: 配達先が不在により荷物を持ち帰って、再配達している割合はどのくらいでしょうか?
A5: ①約50% ②約20% ③約10%
- Q6: 2018 年、日本国内において熱中症で亡くなった死者数は?(厚生労働省統計より)
A6: ①50人以下 ②約500人 ③1500人以上
- Q7: 食品ロス(捨てている食品)で一番多いのはどれか?
A7: ①食べ残し ②賞味期限切れで捨てる ③美味しくなかった

明石の歴史

前号で「明石の歴史」を書いてから、次号に続く予告して終えているが、それに次ぐものを書くこととして今大変迷ってしまっている。

この文を書き始めて、明石の歴史をかいた書物を調べてみると、直良信夫氏が人骨を発見して歴史が始まること、明石の歴史が始まっている。しかし、それから始まる物語のあまりにも多いのに迷ったのが現状である。

下調べをするときに、明石市立文化博物館に行ってみると直良信夫氏によって発見された人骨があり、それ以来多くの人達によって関連する人骨の発見があつてそれらが展示されている。

人骨で書き始めても明石の歴史の深さがあまりにも深く感じられて、他に切口を探してみることにした。

明石市立歴史博物館の出版物を探してみたところたくさんあつて中から「明石市史編さん委員会が、2018年に第1号を出してから2023年の第6号の出版まで6巻にわたつて関係者の努力が重ねられているものがあるのが分かったのでそれによって書いてみることにした。

井上勝博氏の「倭直」の根拠をめぐって」の論文が神武天皇をヤマトへ導いた椎根津彦(シイネツヒコ)の物語からである。

神武東征の物語に現われる明石の椎根津彦は船やかめに乗って海中を航行する「魚人」であり「街道」をよく知るといふ複雑な海流や海路を熟知した「海導者」である。

このように伝承や史料等に見える倭直の姿には明石から西摂を主なく拠点とし大阪湾沿岸を舞台に活動する漁獲をこととし航海術に長けた「海人」としての相貌が色濃く漂う。例えば倭直と淡路の「海人」とのつながりや造船事業との係りを示す伝承、一族の朝鮮半島への渡海をシチュエーションにおりこむ伝えもある。

令制下の資料でも明石や阿波国に見える海人系の氏族「海直」は倭直と同族同系とされ西摂免原郡にも倭直の同族同系関係は広がっている。始祖の椎根津彦を祭る神社等・倭直に関連する神社が西摂・淡路阿波等にも点在することも倭直と大阪湾沿岸との結びつけを示しているだろう。



椎根津彦 / 『前賢故実』より

塩野 勝